

# 宿縁

二月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号  
浄土真宗  
本願寺派  
**中原寺**  
TEL 0477-372102  
FAX 0477-372102

## 「いのち」への 目覚め



NHKテレビの「ファミリーヒストリー」  
を見ているとつくづく「つらなるいのちの不  
思議さ」を思います。  
誰にでもある父母の一生、祖父母の生涯、  
曾祖父母の生涯を、そしてその前々と調べて  
いく中で、その様々な事柄を聞かされる出演  
者は一様にそのようなことはまったく知ら  
なかつたと驚いています。  
その人生の折々の出会い、縁が次の場面を  
作り出して果てしなく繋いでいく「いのちの  
在り様」は唯々不思議としか言いようがあり

ません。

さて、「いのち」を漢字に表した場合「生  
命」と「命」があります。「生命」は見える  
もの、「命(いのち)」は見えないものです。  
仏教すなわちブツダ釈尊の教えは「いの  
ち」への目覚め、発見であります。私たち

のいのちは、「私がついて、私が生まれ死ぬ」  
という存在ではありません。他との関係に  
おいてのみありえている、「無我(むが)」と  
しての存在です。それは、他との関係なく  
して単独に存在するということはありません。  
い、ということ明らかにされました。そ  
れは、自分の思い通りに生きようとする、  
自分の存在が否定されたことです。現在・  
ただいまの私は、「生かされている私」とし  
てしかありえない、そうであるからこそ、  
同時に、自分の思い通りに生きようとする  
生き方が成り立たないのです。

私たちのただいま・この瞬間の「いのち」  
は、「因縁所生(いんねんしよしよう)」つま  
り無量・無数と云ってよいほどの因縁によ  
ってあり得ているのです。したがって、私  
たちの「いのち」を「いのち」たらしめて  
いるもろもろの因縁が消滅すれば、私の「い  
のち」も残存することができない。釈尊は、  
それを「無我(むが)」「我れ無し」と説かれま  
した。

この道理によって明らかにされた私たち  
の「いのち」は、ともに生き合い、他なく

してありえない連帯において、いまの瞬間を  
生きている『縁起の道理』に基づく「いのち」  
への目覚めこそが、釈尊のさとりの基本なの  
です。

しかし、現実の私たちはどうでしょうか。  
私たちは、自らを一個の独立した生命体と見  
なしています。私は私として独自に存在して  
いる。私は私であり、あなたはあなたである。

自と他とが物質的に分離したまま、それぞれ  
の生命を生きている。そう見なしている、そ  
れを「無明(むみょう)の闇」と申します。

ところで、現代の私たちは、この「いのち」  
への問いを見失っていると言えないでしょ  
うか。

その理由の一つは、私たちにとって「いの  
ち」とは、生きていることに関わるだけのもの  
となり、死から切り離されてしまっている  
のではないのでしょうか。肉体的な生命の延長  
を図ることにおいてのみいのちを考え、死を  
タブー視し、見えなくしている。私たちは無  
意識のうちに「人は死ぬけれども、自分は死  
なない」と、死を他人事として生きている。  
その一例をいえば、最近の「直葬(ちよくそ  
う)」という死者の葬送化に見られます。こ  
れなどは生きている人間にとつて好都合の  
ものに変えようとする仕草と言えます。死を  
問わないようにすることによって、生まれ、  
老い、病んで、死んでいくという、生死する  
「いのち」のありのままのあり方が覆い隠さ  
れていくことにもなります。

もう一つは、死あるいは死後について、そ  
れは分からないことだという科学的な合理  
主義の知識論に洗脳されていることです。

科学的合理主義に立つ人は、「死んだら終

わり」という現世主義に立つて死を諦観する  
人もいれば、死の恐怖を内に秘めつつ「どう  
せ死ぬのだから」と利他的に楽しみを求めて  
生きる人もいます。こうした考えは、死の闇  
に包まれたまま、死の恐怖に震え、生きる意  
味さえ見いだせないままに生きていかざる  
をえないでしょう。

現代人は「悲しみを忘れていく」といわれ  
ます。「悲しみ」と「かなわない」とは語源  
が一緒だそうです。叶わないから悲しいので  
すね。「こうしなければ」「ああしなければ」  
と自我に固執し、果てしない欲望に振舞わさ  
れて生きる煩悩に束縛されている私たちで  
すから、その裏には常に悲しみが張り付いて  
いるということなのです。

もう一つの大切な悲しみがありません。前述  
のような私の姿に気づけども「わかっちゃい  
るけどやめられない」自分という存在。その  
ような私を「見捨てない真実」の願いのほ  
たらかし「があつた」という驚きです。それを「大  
悲弘誓(だいひぐぜい)」といいます。

一生を病弱で貧しい生活でありながら「如  
来大悲」に身を預け、苦をいただきものと徳  
に転じた尊い念仏者、赤禰貞子さんは、

「真実に出遇うというのは、真実の願いを  
この自分にかけてくださる方(阿弥陀如来  
のわれに帰せよの本願)に出遇うというこ  
と。その願いに背く自分があればある程、  
そうであってはならないというか、その人  
に願われていたような自分になりたいと  
いう願いが深く湧いてくる。そしてその願  
いは自分で否定することができない、その  
願いに生きるしかなくなる」と。

聞法の中に心して味わいたいものです。

【寺灯雑記】

○元日の朝に本堂にお念仏の声響く  
1/1

二〇二一年を迎えた元日の朝8時より、本堂にて元旦修正会をお勤め致しました。当日は、快晴だったこともあり、初日の出の中を皆さまにご参拝いただきました。

元旦修正会は、新年を祝うとともに、真実のみ教えに生かされる身の有難さを改めて味わい、お念仏をお称えする報恩の日々をおくる思いを新たにす意義の深い法要です。

住職の調声により「正信念仏偈」をお勤めし、その後は「元旦章」の拝読、住職と前任職より年頭法話がありました。

コロナウィルスの影響により、毎年恒例のご流盃の儀や法要後のお雑煮の接待はありませんでしたが、それぞれに新年の挨拶を交わしました。

○婦人会、壮年会とも年次総会が中止

予定していた一月九日の新年年度の婦人会総会、並びに一月二十四日の壮年会総会はいずれも新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止となりました。

両会とも年に一度の総会であり、出席の皆さんの議決を得なければならぬ事項がありました。報告の形をとらせていただきました。

当日配布予定であった総会資料は会員のもとに送付させていただきました。皆様には事情をお汲み取りくださいますようお願いを申し上げます。

尚、壮年会は役員改選年度となり、新会長に盛田好一さんが就任されました。

【仏教語講座「縁起」(えんぎ)】

チューリップの花は、その球根から咲きます。球根が原因(因)で花は結果(果)です。

しかし、球根だけでは花は咲かず、温度・土質・水分・肥料・日光・人間の細心の手入れなど、さまざまな条件(縁)が球根にはたらくて花は咲くのです。

このように、すべてのものには、必ずそれを生んだ因と縁とがあり、「因縁生起(いんねんしようき)」「縁起」というのです。

現実には、因と縁と果とが複雑に関係しあい影響しあつて、もちつもたれつの状態をつくっています。

『阿含経(あこんぎょう)』に「これある故(ゆえ)にかれあり、これ起こる故にかれ起こる、これ無き故にかれ無く、これ滅(めつ)する故にかれ滅す」とあります。

日常、よく「縁起が良い・悪い」という言葉を聞きます。幸不幸や吉凶(きつきょう)の前兆・きざしという意味なのでしょう。縁起とは本来、原因や条件が相互に関係しあつて全ての現象は成立しているという意味です。独立自存(じぞん)するものは何一つなく、条件や原因が欠ければ、結果も自ずからなくなるといふことです。

縁起は仏教の根本教理の一つであり、お釈迦さまの悟りの内容を表す基本的な思想です。

私たちも他の多くのものの力、恵み、おかげを受けて生かされているということですね。

(大乘1月号より転載)

【誠なるかなや】

私が小豆島に行くようになったとき、病弱な二人(夫婦)の生活を非常に案じてくれた人がありました。そのとき私は坂村真民先生の「タンポポは風に吹かれるままに、飛ばされた所で根をおろしてそこで花を咲かせる」という話をしました。その人はそれを、たとえどこへ飛ばされようと、私はそこで花を咲かせるんだという私の自信と受け取ったようでした。私の気持ちはそうではなくて、タンポポは飛ばされた所で花を咲かせて風を恨まない。もし飛ばした風を恨みに思うなら、それは風のせいではなくて、如来に対する私の不信なのだと言いたかったのです。言うまでもなくそれは、「もし不足ならば、これ汝の不信にあらずや」という清沢満之先生のお言葉から出たことでした。

私は

たんぽぽのように

花を咲かせることはできなかったが

風のおかげで

行く先々に咲いている

うつくしい花にあらうことができた

というのが、小豆島生活十年を経て私にできた詩の結びでした。

(林暁宇師著「坊主は乞食だぞ」

—願われて生きる—)より

【法座・行事の案内】

○婦人会法座、壮年会法座

二月の六日と七日の両法座は中止いたします

○常例法座

\*二月二十一日(日) 一時

勤行・讃仏偈

法話：南條了瑛師(東京都・法重寺)

○門信徒会役員会

\*二月二十一日(日) 三時

開始時間の変更にご注意ください

○いのちの居場所を考える会

\*二月二十五日(木) 十時

○教行信証を学ぶ(信文類)

\*二月二十七日(土) 二時

○婦人会法座(正信偈の解説)

\*三月六日(土) 一時

【年会費納入のお願い】

新型コロナウイルスの感染拡大が止むことなく、ここへ来て十一都府県に緊急事態宣言が出されました。「不要、不急の外出を控える」、「三密を避けるために夜間の営業短縮」等、医療危機はもとより暮らしの様々なもこれまでにない影響が出ています。

皆様にはいかががお過ごしでしょうか。そのような中に、門信徒会費の納入ご依頼をさせていただくこと大変恐縮に存じます。が何卒よろしくごお願い申し上げます。

【今月の掲示板のことば】

念仏とは 現に「今」の わたしを捨てはしない という「仏」の「心」なり